

## 情報連絡員報告・12月分

## 懸念される米国BSEの影響

## ～クリスマス歳末商戦は不調か？～

&lt;東京都中央会&gt;

12月の情報連絡員報告によると、「業界の景況」DI値が製造業で-26.2、非製造業で-36.5、「売上高」のDI値が製造業で-1.5、非製造業で-23.5となっていることが明らかになった。注目のクリスマス歳末商戦は、玩具業界の報告によれば、厳しさを増すばかりのようだ。注目の報告として、食肉市場の業界からアメリカのBSEの影響で価格の不安定化がすでに始まっている、というのものがある。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

## &lt;特記事項欄より&gt;

玩具問屋=期待のクリスマス商戦も総合すると前年を上回ることができず、数年連続の売上不振。大型店の力はさらに強く専門店の厳しさは増すばかり。

管工機材卸=景況の底這い状態に変化なく売上げ減少が続いている。

電線卸=マージン低下が続き、流通の生き残りは予断を許さない状況にある。

工業用ゴム製品卸=前年同月で売上高はやや増加するも、販売価格はユーザーからの値下げ要求が相変わらず厳しい。

伸銅品卸=国際相場商品の銅原料が高騰し、製品にも影響が出始めている。

理容用品卸=当業界にとって唯一の市場である理容業界は長引く不況を引きずっているため、理容ディーラーの業績も低迷を余儀なくされた1年であった。

家具卸=家具業界など個人消費の低迷で減収減益、悪化の一途である。

食肉市場卸=米国BSE発生による国内価格の不安定化が始まっている。

包装用材料卸=段ボール関連の値上げは確実に進んでおり大変厳しい状況になりつつある。

豆腐小売=外食が多い月であるのに豆腐の消費量は横這い状態である。中堅の豆腐量産工場ではスーパー等から撤退して、アンテナショップや独自のルー

トによる販売方法をはじめている。

自転車小売=ボーナス需要が去年よりさらに悪化。平均単価も下がり経営困難で廃業も増えている。

電気機器小売=地上デジタル放送の話題は高まっているが、消費者は情報入手の段階で①受信可能エリア内か、②どうすれば受信できるのかの質問が多い。

味噌醤油小売=年末年始は酒類の需要期であるが消費者の買い控えが目立っている。加えて一部のディスカウントストアにより市場が軟化して一般の酒販店の収益は極端に悪化している。

米穀小売=12月19日に実施された入札取引でも価格が高騰し価格対応に苦労しています。価格の値上げは避けられな

い状況ですが、それに伴い、消費者の米離れが懸念されます。

銀座小売業=やはり12月は数字がそれなりにあがっているようだ。人出はいつにもまして多い。

### <要望事項欄より>

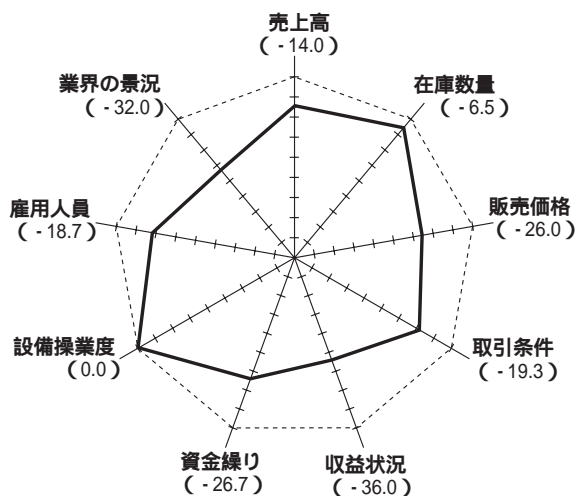
\*金融不安は投資・消費を鈍化させており、特に我々中小企業に設備投資意欲を失わせているので、活字だけの政策でなく行政は真の対応を行うようにして欲しい。 [時計宝石眼鏡小売]

\*排ガス規制に伴うDPF設備、低公害車の納入が間に合わず、1月以降の猶予期間設定を願い出ている。

[廃棄物事業]

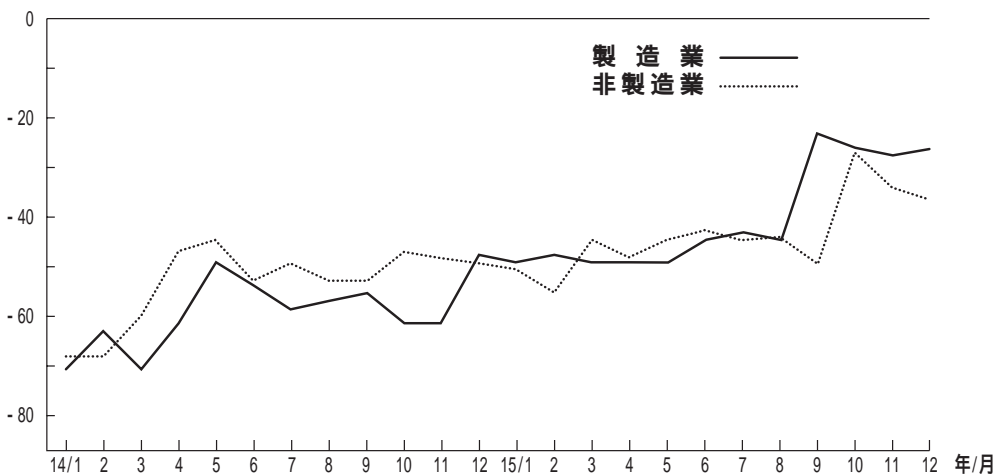
\*高速道路別納事業の成り行きに協同組合の命運がかかっている。 [運送業]

12月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)

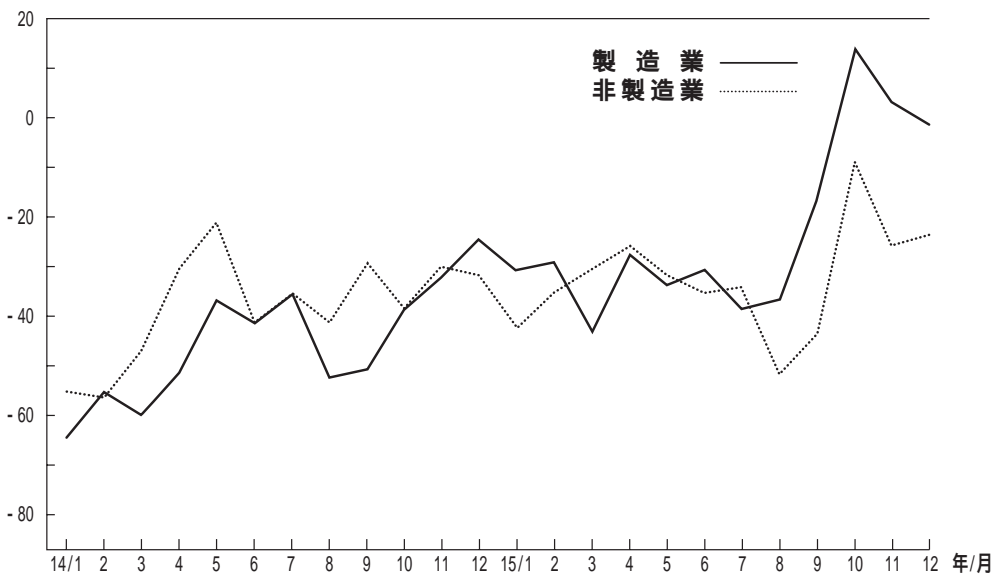


(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

業界の景況DIの変化（H14.1～H15.12）  
（前年同月比）



売上高DIの変化（H14.1～H15.12）  
（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。